

# 施設で経験した困った事例について 報告、対応

令和4年度富山県合同輸血療法委員会

# 臨床 検査 看護師 側

事例：洗浄赤血球製剤の適応について

内容：カリウム値が気になる患者へ照射洗浄赤血球液のオーダーを受けたが使用に問題ないか

# 対応

赤血球製剤の試験成績集をもとに上昇するカリウム値について説明し、照射後の期間が短い照射赤血球液の使用も提案した。

## 富山県合同輸血療法委員会からのコメント

明らかにカリウム値が影響を及ぼす症状については、照射洗浄赤血球液の使用を推奨します。また、照射後の期間が短い照射赤血球液の使用も選択しの一つと思われます。

なお、腎不全患者へのカリウム除去フィルター使用については、保険適応が無いことにご注意いただきたい。

臨床

検査

看護師側

事例：輸血後の発熱について

内容：

輸血副作用の発熱について、輸血後の体温が輸血前に比べわずかに上昇しているケースがあるが、副作用と判断していいのか

# 対応

輸血後38℃以上もしくは1℃以上の対応の上昇がみられた場合、副作用となるがそれ以下に関しては医療機関ごとに違くと回答した。

富山県合同輸血療法委員会からのコメント

院内の輸血療法委員会で輸血副作用に対する判断、対応等を決定し対処することが望ましい。

臨床

検査

看護師側

事例：輸血時間について

内容： 輸血時間に関して、小児輸血では最長6時間となっているが、成人では何時間に設定しているのか。

# 対応

どこの医療機関も6時間を目安にしている。  
それ以上の時間をかけたい場合は、医師の判断のもと実施しているのではないかと回答した。

## 富山県合同輸血療法委員会からのコメント

「血液製剤の使用指針」の長時間を要する輸血へ記載されております。また、使用製剤を無菌的に分割し使用するすることもご検討ください。  
(「血液製剤の使用指針」Ⅶ新生児・小児に対する輸血療法)

# 臨床 検査 看護師 側

事例：赤血球製剤の室温放置について

内容：院内で室温下に40分放置したRBCがある。使用して問題ないか。



# 対応

「輸血療法の実施に関する指針」(20頁、39～40項)を案内し、室温下(20～24℃)で60分以内であれば品質上問題はないと思われると回答した。

## 富山県合同輸血療法委員会からのコメント

その様な事例が発生した場合は、院内の輸血療法委員会へ報告し再発防止に努めていただきたい。

# 臨床 **検査** 看護師 側

事例：輸血後、副作用発生時の対応について

内容：

輸血副作用発生時の連絡体制及び検体採取などの条件を院内へ周知する方法はないか。  
(フローチャートなど分かり易く書いてある資料はないか)

# 対応

副作用発生時の対応方法について相談を受けたため、認定看護師向けのテキストを持参し案内した。

## 富山県合同輸血療法委員会からのコメント

日本輸血・細胞治療学会から出版されている輸血副作用対応ガイド等の冊子を参考に、院内の輸血療法委員会で検討し体制を構築されることが重要と考えます。また、副作用・感染症の発生時に血液センターへ情報提供いただき、その内容に応じて必要な検体種類や量をお伝えします。輸血前検体については、全血で2ml(血清か血漿が必要)の保管をお願いしているとの事。

# 臨床 検査 看護師 側

事例：新型コロナウイルスワクチン接種後の自己血採血について

内容：何か制限や決まりなどはあるのか。

# 対応

日本自己血輸血・周術期輸血学会の実施基準案について説明し、現在は特にそれらについての記載はない旨伝えた。

## 富山県合同輸血療法委員会からのコメント

現在、日本赤十字社の採血基準は、mRNAワクチン(ファイザー、モデルナ)は48時間、ウイルスベクターワクチン(アストラゼネカ)は6週間ご遠慮いただいております、参考となるかと思われる。

# 臨床 検査 看護師 側

事例：輸血後の製剤バッグの保管に関して

内容：

現在院内輸血マニュアルを見直ししているが、使用済み製剤バッグの保管は義務なのか。他院はどのようにしているのか。

# 対応

清潔な状態で数日保管している事が望ましいが、医療機関ごとに状況が違い現状を把握していない。

## 富山県合同輸血療法委員会からのコメント

「輸血療法の実施に関する指針」へ明記されており、輸血後の使用済みバッグを保存する意義は、輸血後に患者が細菌感染症を発症し、輸血が疑わしいとなった場合に原因究明を行うためです。院内の輸血療法委員会にて検討し対応いただくことを望みます。

(「輸血療法の実施に関する指針」参考4。血液バッグ回収上の注意点が参考5に記載)